

二〇〇〇年十二月十二日  
東興ビル4F第三種郵便物承認  
毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行発行人  
関西障害者定期刊行物協会

大阪市天王寺区真田山

KSKS

No. 102 19. 8. 31

## ゆいゆい通信

編集人 社会福祉法人 寧楽ゆいの会  
〒631-0823 奈良市西大寺国見町3-5-5  
TEL/FAX 0742-41-6039定価 1部 50円  
年間 300円

## ◆法人からの報告

「変化の時 あれこれ考える」

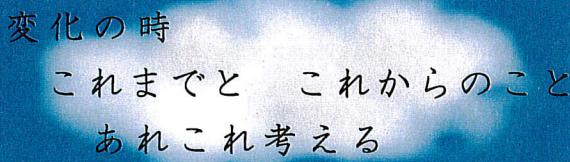
理事 六十谷尚美 …1

## ◆News

- ◇「天理市こころの相談窓口案内」完成
- ◇五条山病院デイケアしごとリハビリテーション…2
- ◇ゆいの会役員体制 …3

## ◆Reports

さわやぎ	…3
ピアステーションゆう / スペースTAKU	…4
きらく舎 / 地活こもれび	…5
就労こもれび / 生訓こもれび	…6
歩っと / コンパス	…7
◆Information	
第31回こころの講演会案内	
◆Thanks	
寄付のお礼	…8



猛暑の折、皆様いかがお過ごしでしょうか？

近年、生活介護、就労継続支援B型などの障がい福祉サービスが、利用者の滞在時間や就労者数、平均工賃などの目に見える「成果」を求められ、運営条件が厳しくなりつつあります。中には、長時間活動したり、毎日来所したりすることが難しい精神障がい者への支援にはそぐわないものもあります。その都度法人として、又は他団体とともに市や県に実態を伝えるなど対応しています。地域活動支援センターや相談支援事業も、市からの様々な委託業務をかかえながら、少ない職員体制で危機介入も含めた個別支援やグループ活動を行なっています。

自分たちがどんな支援をしたいのか、どんな地域や社会を目指して、そのために何をするのか、ということにいつも立ち返って考えていなければ前に進めない、そんな感じがあります。

これまではどうやって事業を作ってきたのかを改めて振り返ってみます。支援の中で本人と関わり、また家族から話を聴く中で、「こんな場所、こ

んな支援があればもっと豊かに、もっと安心して暮らせるのでは」というものを、現場の職員が拾いあげて、精神障がい者の生活実態、暮らししさに対応する支援を形にしてきたのだと思います。

今、事業として課題になっているのは、①高齢の利用者への支援をゆいの会としてどこまでできるのか ②通所系の事業、特にB型は、事業所が増え、ゆいの会として行なう意味や特色をアピールできなければ淘汰されていくかもしれない ③今後、ゆいの会には訪問型や相談での活躍が求められるだろうが、相談支援事業は委託内容が1年単位で決まるため、運営面で不安定 などです。

どの事業も必要だから作り、運営してきましたが、これからも必要とされるのか、安定した運営が可能か、マンパワーを確保できるか、などの条件がそろって初めて続けていくことができます。

どんな支援を目指すのかという点では、前号の庄野理事の報告にもあったように、専門職の支援で生活を固めるのではなく、地域の人や仲間と関わるくらしを必要な部分だけ支援する、ということも意識していきたいです。 (六十谷尚美)



## News

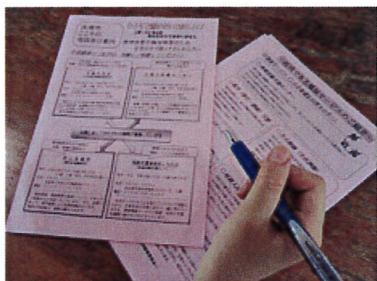
## 天理市こころの相談窓口案内

## パンフレットが完成しました！



天理市自立支援協議会の精神障害者部会が「天理市こころの相談案内」というパンフレットを作りました。精神障がいのある人が使える天理市内の相談窓口や福祉サービスの案内、手帳・医療費助成など制度の説明、当事者会や家族会の情報が載っています。相談支援事業所こもれびや天理よろづ相談所病院などの関係機関に置かれ、市のホームページにも掲載されています。

精神障害者部会では、当事者や家族がひとりで



悩まず、いろいろな支援を利用しながら安心して相談や生活ができる地域づくりを目指して活動しています。その活動の一つとし

て、取り組んできたのがパンフレットの作成です。

病気や障がいのしんどさを抱えていても、どこに相談すれば良いのかがわからず、社会から孤立してしまう当事者・家族は多く存在していると思われます。通所や訪問などのサービスがあることを知らなかつたり、その情報にたどり着くまでの道のりが遠かつたりと、精神保健福祉に関する情報が広く知られていないのではないかと、部会で意見があがりました。医療やサービスとつながっていない人に、どうやって情報や支援を届けるか話し合った結果、パンフレットを作成することになりました。

精神障害者部会は、天理市役所障害福祉係、健康増進課、社会福祉協議会、天理よろづ相談所病院白川分院、天理こころの会（家族会）、こもれびで構成されています。  
（河部香澄）

## 五条山病院デイケアセンター しごとりハビリテーション

五条山病院デイケアセンターでは、平成28年6月から『しごとりハビリテーション』を実施しています。パソコンや軽作業などの就労に向けたトレーニングを行ないます。また、「自分の症状について」「健康管理法」「企業に伝えること」などのテーマに沿ったワークシートに記入し、「自分の説明書」のようなものを作ります。自分の症状のコントロール方法について学び、自己理解を深めることにも力を入れています。

ハローワークとも連携し、個別相談とジョブガイダンス（求人の紹介など）を月に1回ずつ開催しています。

デイケアセンター課長の早川智美さんは、デイケアで就労に向けたプログラムを始めたきっかけについて、「就労に向けた準備だけではなく、症状の再発を予防しながら働くという面で、医療からのサポートが必要だと考えた」と話します。しごとりハビリテーションの卒業後もスタッフが職場（一般、就労継続A型・B型など）を訪問し、「安



心して働き続けること」をサポートします。

プログラムに参加した人は、仲間やスタッフとの交流を通して「そういう働き方もあるんだ」という新しい発見をするそうです。

しごとりハビリテーションをきっかけとして、「働く」ということに限らず、自分の特性や、やりたいことについて改めて考え、自分の納得のいく生活を見つけていくことが大切にされています。

（糸谷優）

▶ たくさんのお問い合わせを経て、  
完成しました

▶ 集中力や課題に取り組む力を養います